

大垣 ～2014～

俳句などテーマに事業を展開
おおがき芭蕉生誕三七〇年祭



俳人・松尾芭蕉の生誕から今年で370年。市はこれを記念し、さまざまな事業を展開しました。

5月に「国際俳句講演会」、11月には「おおがき芭蕉生誕370年記念シンポジウム」を開催。俳句をキーワードに、国外や、芭蕉ゆかりの他都市との交流を深めました。

また、市民団体などが企画・運営を務めた「市民企画事業」では、ユニークなイベントなどで多くの市民と団体がふれあいを楽しみました。

市は、今後も俳句文化の振興をはじめ、「奥の細道むすびの地 大垣」を全国に向けて積極的にPRしていきます。



“子育て日本一”の推進

「子育て日本一のまち」を目指す大垣市。今年3月には、円形の園舎が特徴の北幼保園が完成。回遊性のある空間により、園児の動きの「わ」・ふれあいの「わ」を実現しました。

また、今年度から、「子育て世代住宅取得支援事業」を開始しました。中学生以下の子がいるなどの条件を満たしたうえで、市街化区域内で新築住宅を取得し、市外から転入した人に、住宅取得資金の利子の一部を助成しています。



市は、今後も子育て世代に優しいまちづくりを推進していきます。

歴史文化遺産の活用進める

10月6日、上石津町宮にある「西高木家陣屋跡」が国指定史跡となりました。また、3月18日には船町港跡が「おくのほそ道の風景地 大垣船町川湊」として市内初の国名勝に指定されたことをきっかけに、国名勝指定記念事業にも力を注ぎました。



市は、今後も文化遺産の保護・整備・活用を推進していきます。

さらなる定住促進に向けて

子育て世代を中心とした定住人口増加を図るため、今年4月に都市プロモーション室を設置し、大垣の魅力発信に向けた事業を展開しました。9月には、移住を検討している子育て世代を対象に、移住・定住ポータルサイト「大垣暮らしのすすめ」を開設しました。



また、市長とこれからの子育て世代となる10代・20代の女性が、大垣の魅力や課題を語り合う意見交換会も開催。初回は、10月に大垣女子短期大学で行われ、学生11人が若い女性ならではの感性で、市長に思いを語りました。



市は、今後も人口減少に歯止めをかけ、定住促進につながる施策の展開に努めていきます。

高度医療の充実へ —大垣市民病院—

大垣市民病院は、7月に西濃地域初となる、最新鋭の血管造影システムと専用の手術台を持つ「ハイブリッド手術室」を導入しました。同手術室は、カテーテルによる血管内治療と外科手術を同時に行うことができるのが特徴です。



市民病院は、今後も西濃地方の地域医療の中核病院として、良質な医療の提供を続けていきます。

7月 ◆消防操法大会(6日) ◆もんでこかみいしづ(19日) ◆すのまた天王祭(27日) ◆水都まつり(31日～)

8月 ◆大垣国際女子ソフトボール大会～OGAKI CUP～(1日～) ◆水都っ子ウィーク(2日～) ◆西濃運輸優勝報告会・祝賀パレード(3日) ◆大垣市・伊賀市こども俳句教室(19日) ◆西濃運輸優勝祝賀会(24日) ◆総合防災訓練(31日)=写真=



9月 ◆第3回市議会定例会(1日～) ◆移住・定住ポータルサイト「大垣暮らしのすすめ」を開設(1日)

◆ツール・ド・西濃(27日)=写真=

10月 ◆アートフルタウン大垣(3日～)

◆大垣めしグランプリ(4日～) ◆守屋多々志美術館特別展(4日～) ◆水の都おおがきたらい舟(4日～) ◆すのまた秀吉出世まつり(5日) ◆日本どまんなか城下町フォーラム(5日) ◆西高木家陣屋跡が国史跡に指定(6日) ◆十万石まつり(12日) ◆おむすび博(18日～) ◆市民の健康広場(19日) ◆芭蕉蛤塚忌全国俳句大会(19日) ◆ふれあいかみいしづ(26日) ◆湧水保全フォーラム全国大会 in おおがき



(27日) ◆市教育功労者表彰式(31日)

11月 ◆中山道赤坂宿まつり(2日) ◆おおがき芭蕉生誕370年記念シンポジウム(8日) ◆東西全国俳句相撲(9日) ◆大垣消防フェスタ(9日) ◆かがやきライフタウン大垣「秋のつどい」(15・16日) ◆芭蕉元禄大垣楽市・楽座まるごとバザール(15・16日) ◆子育て総合支援センターフェスティバル(23日)=写真= ◆芭蕉元禄大垣イルミネーション(29日～)



12月 ◆第4回市議会定例会(1日～) ◆衆議院議員総選挙(14日)